

」平成30年(2018年)6月15日

長野県病虫害防除所

病虫害発生予報 第3号

(向こう1か月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病虫害名	地域	発生量	発生時期	摘要
麦	赤かび病	全域	並	並	
	さび病	全域	やや多	並	
	うどんこ病	全域	並～やや多	やや早	
水稻	葉いもち	全域	並	並	
	縞葉枯病・黒条萎縮病 (媒介虫: ヒメトビウンカ)	全域	並	並	
	ツマグロヨコバイ第1回成虫 (黄萎病)	全域	並	並	
	ニカメイチュウ第1世代幼虫	全域	並	やや早	
	イナゴ	全域	並	並	
	イネドロオイムシ	全域	並	並	
	イネミズゾウムシ	全域	並	並	
りんご	黒星病	全域	やや多		
	斑点落葉病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	腐らん病	全域	やや多		
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
	モモシンクイガ	全域	並	やや早	
	リンゴハダニ	全域	並	並	
	ナミハダニ	全域	並	並	
	リンゴカクモンハマキ (ハマキムシ類)	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	やや多	やや早	
	スモモヒメシンクイ	全域	並	やや早	
なし	黒斑病	全域	並		
	黒星病	全域	やや多		
	輪紋病	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並	並	
	ナミハダニ	全域	並	並	
	アブラムシ類	全域	並	並	

もも (ネクタリンを除く)	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
	シンクイムシ類	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	やや多	並	
	黒星病	全域	並	並	
	せん孔細菌病	全域	多い		
	灰星病	全域	並	並	
	モモハモグリガ	全域	やや多	やや早	
ぶどう	ハダニ類	全域	並	並	
	シンクイムシ類 (モシンクイガ)	全域	並	並	
	ハマキムシ類	全域	並	並	
	灰色かび病	全域	並	並	
	べと病	全域	やや多	やや早	
きゅうり	ブドウスカシバ	全域	並	並	
	ブドウトラカミキリ	全域	並	並	
	チャノキイロアザミウマ	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
トマト	うどんこ病	全域	並	並	
	褐斑病	全域	並	並	
	灰色かび病	全域	並	並	
施設果菜類 (きゅうり、 トマト等)	アザミウマ類 アブラムシ類	全域	並～やや多	並	
レタス	灰色かび病・すそ枯病・菌核病	全域	並	並	
	斑点細菌病	全域	並	並	
	軟腐病・腐敗病	全域	並	並	
アスパラ科野菜	黒斑細菌病	全域	並	並	
	コナガ	全域	やや多	並	
はくさい	ピシウム腐敗病	全域	並	並	
	軟腐病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
アスパラガス	茎枯病	北信	並	並	
	ジュウシキビガハムシ	中山間	並	並	
野菜・花き	オオタバコガ	全域	並	並	
	ヨトウガ類	全域	並	並	
	ハモグリバエ類	全域	並	並	
	アブラムシ類	全域	並	並	
	アザミウマ類	全域	並～やや多	並	
	ハダニ類	全域	並～やや多	並	

「県防除基準」; 長野県農作物・雑草防除基準

農業危害防止運動実施中 (6月1日～8月31日) 「農薬はラベルをよく読んで使用しましょう。」

Ⅱ 向こう1か月の気象予報（長野気象台 6月14日発表）

1 予想される向こう1か月の天候（6月16日～7月15日）

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

2 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	2 0	4 0	4 0
降 水 量	4 0	4 0	2 0
日照時間	2 0	4 0	4 0

Ⅲ 麦

1 赤かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 6月上旬の巡回調査ほ場での発生は平年並みだが、調査ほ場以外の一部地域（ほ場）では発生がやや散見された。
 - 農業試験場で上伊那地域に設置したクロープナビによる感染好適条件の観測においては、開花期から2週間程度の期間に感染好適条件は観測されている。
- (3) 防除上の留意点
- 収穫期に病徴が発現することもあるので、収穫までは場巡回を行い発生の確認を行う。
 - 発生ほ場における収穫物の扱いについては、関係者と協議する。

2 さび病

- (1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 6月上旬調査でコムギ赤さび病の発生は平年に比べやや多く、発生地点率も平年に比べ多く、地域（ほ場）によっては発生が目立つところもある。
 - 麦類の生育は、平年に比べて5日程度進んでいる。
- (3) 防除上の留意点
- 赤さび病については、発病ほ場での茎葉等の収穫物残さや、収穫漏れの麦粒（こぼれ麦）から発芽した株は次年作への伝染源となるので適正に処分する。

3 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：やや早
- (2) 予報の根拠
- 県中部地域で発生がみられ、地域（ほ場）によって発生の目立つところもある。
 - 麦類の生育は、平年に比べて5日程度進んでいる。
- (3) 防除上の留意点
- 曇雨天が続く（湿度が高い）と発生が多くなる。また、遅播き、窒素肥料の過

剰、追肥時期の遅れ等で軟弱過繁茂になると発生しやすい。

Ⅳ 水稲

1 葉いもち

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 葉いもち感染予測モデル「BLASTAM」によると、6月1～11日の期間で南信地域を中心に感染好適条件が出現している（+）。
 - 気象庁の1か月予報によると平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温は平年並又は高い確率が40%と予想されている（-）。
- (3) 防除上の留意点
- 補植用苗は、伝染源となることが多いため、早期に除去する。
 - 葉いもちの発生に注意し、発生が認められた場合は、直ちに防除を行う。

2 縞葉枯病・黒条萎縮病（媒介虫：ヒメトビウンカ）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 近年、縞葉枯病の発生は少ない状況が続いている（-）。
 - 前年のヒメトビウンカの発生は平年並からやや少なかった（-）。
 - 気象庁の1か月予報によると平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温は平年並又は高い確率が40%と予想されている（+）。
- (3) 防除上の留意点
- 麦作地帯では登熟期以降、水田への飛び込みが増加するので注意する。

3 黄萎病（媒介虫：ツマグロヨコバイ）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- 近年、生育期における発生は、極めて少ない状況が続いている（-）。
 - 前年のツマグロヨコバイの発生はやや少なかった（-）。
 - 気象庁の1か月予報によると平年に比べ曇りや雨の日が少なく、気温は平年並又は高い確率が40%と予想されている（+）。

4 ニカメイチュウ第1世代

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや早
- (2) 予報の根拠
- 前年の発生は全般には平年並～やや多く、東信の一部地域で収量には影響しないものの発生の目立つところがみられている（+）。
 - 小布施町のフェロモントラップ調査及び須坂市予察灯調査で6月2半旬までに誘殺が確認されていないが、上田市の予察灯調査で5月3半旬から誘殺が確認されている。
- (3) 防除上の留意点
- 第1世代幼虫の防除適期は発蛾最盛期の10日～15日後で、北信では通常6月下旬頃である。

5 イナゴ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 前年の成虫発生量は、平年並からやや少であった。
② 6月上旬調査時点で一部地域（ほ場）の畦畔際に幼虫が散見された。
(3) 防除上の留意点
① 若齢期の防除効果が高いので、発生が多い場合には7月上旬頃までに防除を行う。

6 イネドロオウムシ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 6月上旬調査において、常習発生地域（ほ場）で成虫は確認されたが、幼虫の発生は確認されなかった。成虫による被害程度は平年並～やや少であった。
(3) 防除上の留意点
① 苗箱施薬をしても、発生が多い場合には、本田防除を実施する。
② カーバメート薬剤に対する抵抗性が発達している地域では、薬剤選定に留意する。
③ 本田における茎葉散布剤の防除適期は、幼虫の加害初期（幼虫による葉の被害が見え始める頃）である。

7 イネミズゾウムシ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬世代成虫の水田侵入時期は平年より早いと推定された（+）。
② 6月上旬調査の本田での成虫の発生は、平年に比べやや少なかった（-）。
(3) 防除上の留意点
① 苗箱施薬をしても発生が多い場合は、本田防除を実施する。
② 要防除密度は、成苗で株当たり1頭、中苗で0.7頭、稚苗で0.4頭である。

V りんご

1 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
(2) 予報の根拠
① 巡回調査ほで、6月上旬に発生園が多くみられた。
(3) 防除上の留意点
① 散布間隔をあげすぎず、定期的に薬剤散布を行う。

2 斑点落葉病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 巡回調査ほでは6月上旬まで発生がみられていない。
(3) 防除上の留意点

- ① 通常、6月中下旬頃に発生する。今後降雨が多く、多発が予想される場合は「農作物病害虫・雑草防除基準」（以下「県防除基準」と略す）に従い薬剤を選択して防除する。

3 輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬伝染源量は「平年並」と推測される。
(3) 防除上の留意点
① 散布間隔をあげすぎず、定期的に薬剤散布を行う。

4 炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬伝染源量は「平年並」と推測される。
(3) 防除上の留意点
① 散布間隔をあげすぎず、定期的に薬剤散布を行う。

5 腐らん病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
(2) 予報の根拠
① 巡回調査ほで枝腐らん、胴腐らんが散見されている。
(3) 防除上の留意点
① 定期的に園内を点検し、病斑の削り取りと薬剤塗布を行う。また、枝腐らんに早期に切除する。

6 ナシヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 巡回調査ほでは、新梢先端部の「心折れ」症状はみられなかった。
(3) 防除上の留意点
① 第1世代成虫は6月上中旬から7月上旬に発生するので注意する。
② 有袋栽培でも加害されることがあるので、「県防除基準」に従い薬剤を選択して防除を行う。

7 モモシンクイガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**やや早**
(2) 予報の根拠
① 越冬幼虫量は、平年並であると推測される。
② フェロモントラップで誘殺数が早い調査ほがある。
(3) 防除上の留意点
① 平年では、越冬世代成虫は6月上旬頃から発生し、7月上旬頃盛期となる。
② 発生園では「県防除基準」に従い薬剤を選択し、6月中下旬頃から防除を行う。

8 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査で一部のほ場で発生がみられた。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 防除基準に従い薬剤を選択し、散布ムラが生じないように防除する。

9 ナミハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月上旬の巡回調査で一部のほ場で発生がみられた。
 - ② 気象要因 (一) 曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、散布ムラが生じないように防除する。

10 リンゴコカクモンハマキ（ハマキムシ類）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査ほでのハマキムシ類の発生量はほぼ平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」に従い薬剤を選択して、第1世代幼虫が出揃う6月中旬～下旬に防除する。

11 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多** 発生時期：**やや早**
- (2) 予報の根拠
 - ① 越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺は、やや早かった。
 - ② 果そう葉への寄生が散見された。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 成虫発生初期に食入防止効果のある薬剤を散布する。

12 スモモヒメシクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**やや早**
- (2) 予報の根拠
 - ① 越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺はやや早かった。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 平年の第1世代成虫は6月下旬から7月上旬に発生するが、本年は発生時期がやや早いので防除時期時に注意する。
 - ② シンクイムシ類で登録のある薬剤を選択し、丁寧に散布する。多発園では散布間隔を10日間に縮める。

VI なし

1 黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月上旬までの発生は少ない。
 - ② 気象要因 降水量は平年並み～やや少ないと予想されている。

- (3) 防除上の留意点
 - ① 地域等の防除暦に沿って降雨前の予防散布を実行する。

2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回調査ほでの発病は認められなかったが、常発地等では発病が認められている。
 - ② 気象要因 降水量は平年並み～やや少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 「幸水」は果実肥大期に感受性が再び高まり、感染しやすくなる。
 - ② 地域等の防除暦に沿って降雨前の予防散布を実行する。

3 輪紋病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 気象要因 降水量は平年並み～やや少ないと予想されている。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 地域等の防除暦に沿って降雨前の予防散布を実行する。

4 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月上旬まで目立った発生はなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 発生状況は園地ごとに異なる。発生状況を確認し必要に応じて殺ダニ剤を散布する。
 - ② 散布ムラが無いようにする。

5 ナミハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月上旬まで目立った発生はなかった。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 発生状況は園地ごとに異なる。発生状況を確認し必要に応じて殺ダニ剤を散布する。
 - ② 散布ムラが無いようにする。

6 アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 巡回ほでは新梢で見られ全般に発生は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 寄生が見られたら、必要に応じて地域等の防除暦に沿って殺虫剤を散布する。

7 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬世代幼虫による食害は認められなかった。
② フェロモントラップの誘殺時期は平年並となった。
(3) 防除上の留意点
① 地域等の防除暦に沿って適時に殺虫剤を散布する。平年の越冬世代成虫の発生時期は5月下旬から6月中旬である。

8 シンクイムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 全般に発生は平年並である。
② ナシヒメシンクイ越冬世代成虫の誘殺ピークは平年並となった。
(3) 防除上の留意点
① 地域等の防除暦に沿って適時に殺虫剤を散布する。第1世代成虫の平年の発生時期は6月中旬頃である。

9 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① チャバネアオカメムシの越冬場所フェロモントラップへの誘殺数はやや多い。
(3) 防除上の留意点
① 地域等の防除暦に沿って適時に殺虫剤を散布する。

VII もも(ネクタリンを除く)

1 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 巡回調査では、発生が認められなかった。
② 近年発生がほとんどみられていない。
(3) 防除上の留意点
① 防除基準に従い薬剤を選択して防除する。

2 せん孔細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**多い**
(2) 予報の根拠
① 巡回調査ほでは、6月上旬に多くのほ場で発生がみられ、発病葉率が高い園地もあった。
② 果実感染もみられている。
(3) 防除上の留意点
① 防除基準に従い薬剤を選択して防除する。
② 有袋栽培では早めに袋掛けを行う。

3 灰星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 巡回調査では、発生は認められなかった。
(3) 防除上の留意点
① いずれの品種も収穫20日前頃からの防除が重要となるので、防除基準に従い薬剤を選択して防除する。

4 モモハモグリガ

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多** 発生時期：**やや早**
(2) 予報の根拠
① フェロモントラップの誘殺が早い。
② 5月下旬に寄生葉がみられた。
(3) 防除上の留意点
① 成虫発生初期に食入防止効果のある薬剤を必ず散布する。

5 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 6月上旬調査では発生がみられていない。
② 気象要因 (+) 曇りや雨の日が少ないと予想されている。
(3) 防除上の留意点
① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、散布ムラが生じないように防除する。

6 シンクイムシ類(モモシンクイガ)

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① フェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺は平年並み。
(3) 防除上の留意点
① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、6月中下旬以降、定期的に防除する。

7 ハマキムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 巡回調査ほで新梢被害はみられず、ほぼ平年並の発生量と推測される。
(3) 防除上の留意点
① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、6月中旬頃に防除する。

VIII ぶどう

1 灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 6月上旬までの巡回調査では、発生は認められなかった。
(3) 防除上の留意点
① 「県防除基準」に従い、薬剤を選択して防除する。

- ② 薬剤の散布ムラが生じないように新梢管理を行う。落花期以降は花かす落としを励行する。

2 ベと病

- (1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：やや早
(2) 予報の根拠
① 6月上旬までの巡回調査では、発生は認められなかったが、現地では発病が確認されている。
(3) 防除上の留意点
① 「県防除基準」に従い薬剤を選択し、散布間隔をあけすぎないように防除する。
② 薬剤の散布ムラが生じないように新梢管理を行う。

3 ブドウスカシバ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 6月上旬までの巡回調査では幼虫による被害枝はみられなかった。
(3) 防除上の留意点
① 発生がみられる地域では、産卵時期の6月上旬～下旬に薬剤散布する。ただし、薬剤の使用に当たっては登録内容を遵守する。

4 ブドウトラカミキリ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 6月上旬までの巡回調査では幼虫による被害枝はみられなかった。
(3) 防除上の留意点
① 6月下旬～7月上旬までに園内を点検し、被害枝を切除する。

5 チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 6月上旬の巡回調査では、一部のほ場に寄生がみられた程度であった。
(3) 防除上の留意点
① 平年では、6月下旬頃から発生量が多くなる。「県防除基準」に従って薬剤を選択し、防除時期が遅れないようにする。
② 防除実施後、できるだけ早く袋掛けを行う。

Ⅷ 野 菜

1 キュウリベと病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 6月上旬の巡回調査では、きゅうりの一部施設栽培ほ場で発生がみられた。
② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。

- (3) 防除上の留意点
① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
② 下葉で発病の著しいものは摘葉する。
③ 多湿条件で多発する。

2 キュウリうどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 6月上旬の巡回調査では、きゅうりの一部施設栽培ほ場で発生がみられた。
② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。
(3) 防除上の留意点
① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
② 下葉で発病の著しいものは摘葉する。

3 キュウリ褐斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 6月上旬の巡回調査では、きゅうりの一部施設栽培ほ場で発生がみられた。
② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。
(3) 防除上の留意点
① 発病を認めたら直ちに、「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
② 初発時の発病葉はすぐに摘葉し、処分する。
③ 前年発生ほ場では、残渣や資材に病原菌が付着しているので十分注意する。
④ 高温多湿条件で多発する。

4 トマト灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 6月上旬の巡回調査では、中信地域の一部施設栽培で発生がみられた。
② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。
(3) 防除上の留意点
① 発病果の除去、ハウス内の除湿など環境対策を実施する。
② 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
③ くん煙剤、常温煙霧法の利用はハウス内の湿度上昇抑制に有効である。

5 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のアザミウマ類・アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
(2) 予報の根拠
① 6月上旬の巡回調査では、きゅうり・トマトの施設及び露地栽培の一部ほ場で発生がみられた。
② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
- ② 施設栽培で、日中の気温上昇により側窓を解放する場合は、飛び込みに注意する。

6 レタスベと病・菌核病・灰色かび病・すそ枯病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
- ② いずれの病害も本葉 10 葉頃から、2 回程度防除すると効果が高い。

7 レタス斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、中信地域で発生が多いところがあった。
- ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
- ② 降雨が多いと多発する。

8 レタス軟腐病・腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかったが、例年、この時期から発生が急増する。
- ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
- ② 降雨前あるいは降雨後直ぐに薬剤を散布する。
- ③ 常発地・多発地では、排水対策を行う。
- ④ 高温多雨条件で多発する。

9 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。

(3) 防除上の留意点

- ① グリーンボールは特に発生しやすいので注意する。

② 育苗時の発生に注意し、発病苗とその周辺の苗は定植に用いない。

③ 発生ほ場の被害茎葉は、土壤中の病原菌密度が増加するのですき込まない。

④ 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。

⑤ 降雨が多いと多発する。

10 コナガ（アブラナ科野菜）

(1) 予報の内容 発生量：**やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では一部地域のキャベツほ場で被害がみられた。また、フェロモントラップへの誘殺状況は、一部の地域で平年に比べて誘殺数が多くなっている。

② 本種は高温で発生量が減少する。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」に従って薬剤を選択して散布する。
- ② 同一系統剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

11 ハクサイピシウム腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、東信地域の一部ほ場で発生がみられた。
- ② 近年発生が増加している。
- ③ 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。

(3) 防除上の留意点

- ① 高温期は軟腐病が併発しやすいので、軟腐病の防除も行う。
- ② 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
- ③ 降雨が多いと多発する。梅雨期に発生が多い。

12 ハクサイ軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査ではほ場での発生は確認されていないが、例年この時期から発生が急増する。
- ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。

(3) 防除上の留意点

- ① 害虫の食害痕から発病しやすいので、害虫防除をする。
- ② 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
- ③ 高温多湿条件で多発する。

13 ハクサイベと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ② 低温多湿条件のときに発生が多い。

(3) 防除上の留意点

- ① 本病に感受性の高い品種の作付けは避ける。
- ② 定植直後から定期的に予防散布を実施する。
- ③ 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。

14 アスパラガス茎枯病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 春の収穫残茎への発生は確認されていないが、例年梅雨期に発生が急増する。
 - ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 雨除けをすると、茎枯病の予防効果が高い。
 - ② 防除は収穫打ち切り後、立茎完了までの期間が特に重要である。
 - ③ 切り株や残さについた病原菌が伝染源となり、降雨時の泥はね等により感染するので、残さを除去し、土寄せや敷きワラ等で泥はねを防ぐ。
 - ④ 病茎は早期に刈り取り、穴を掘って埋めるなどの処分をする。
 - ⑤ 気温が高く、降水量が多いと多発する。

15 アスパラガスのジュウシホシクビナガハムシ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月上旬の巡回調査では発生はみられなかったが、中山間地域の一部ほ場では、発生がみられた。
 - ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。

16 オオタバコガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① フェロモントラップへの初誘殺は野菜花き試験場（塩尻市）では昨年より5月中旬遅い6月第1半旬、野菜花き試験場佐久支場（小諸市）では昨年より2月中旬遅い5月第3半旬、農業試験場（須坂市）では昨年より1月中旬早い5月第1半旬であった。
 - ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 防除基準により薬剤を選択して防除を行う。
 - ② 系統の違う薬剤を、ローテーションしながら散布する。
 - ③ 結球野菜では、結球始期を中心に1週間間隔で2～3回防除を行う。
 - ④ 合成ピレスロイド剤の多用は、ハダニ類の多発を引き起こすので注意する。

17 ヨトウガ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

- (2) 予報の根拠
 - ① 野菜花き試験場内（塩尻市）のヨトウガ及びハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺は、平年並であった。
シロイチモジヨトウの誘殺は、平年より早い5月第3半旬に初誘殺されているが、6月第1半旬にも1頭誘殺された。
 - ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。

18 ハモグリバエ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月上旬の巡回調査では、北信地区のたまねぎ、中南信地区のねぎで発生が目立つところがあった。
 - ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 苗床での防除を徹底する。
 - ② 育苗施設では粘着トラップを設置し、成虫を捕殺する。
 - ③ 「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
 - ④ 収穫後は、残さの処分を徹底する。

19 アブラムシ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月上旬の巡回調査では、北信地域の露地栽培きゅうり、施設栽培トマト及びアスパラガス、中南信地区のねぎ、南信地区のきく等で発生がみられた。
 - ② 地区発生予察ほかに設置した黄色粘着トラップによる有翅虫の飛来数調査では、5月第6半旬から6月第1半旬にかけて急減したが、長野市（キャベツ）、上田市（はくさい、レタス）のほ場では6月第2半旬に増加した。
 - ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。
- (3) 防除上の留意点
 - ① 発生を認めたら、多発する前に「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
 - ② レタスヒゲナガアブラムシは、レタスの結球期前に重点防除を行う。

20 アザミウマ類（野菜、花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ① 6月上旬の巡回調査では、中南信地区のきゅうり及びねぎ、南信地区のトマト、中信及び北信のたまねぎ、北信のアスパラガス等で発生がみられた。
 - ② 気象要因 (+) 降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並が多い。

(3) 防除上の留意点

- ① 育苗期又は定植時に適用のある薬剤を使用する。
- ② 発生を認めたら、多発する前に「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。
- ③ アザミウマの種類によって薬剤に対する感受性が違うので、防除を実施したら効果を確認し、効果の低い場合は系統の違う剤で防除する。
- ④ ほ場周辺の雑草に寄生し発生源となるので、雑草防除等ほ場衛生を心がける。

21 ハダニ類（野菜、花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 6月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
- ② 気象要因（+）降水量は平年並か少なく、気温は高く、日照時間は平年並か多い。

(3) 防除上の留意点

- ① 施設などで乾燥状態が続くと多発しやすい。
- ② 被害の早期発見に努め、発生を認めたら、多発する前に「県防除基準」により薬剤を選択して防除を行う。